

KD ラスターコンバート

# RS3PST スタンプ合成オプション

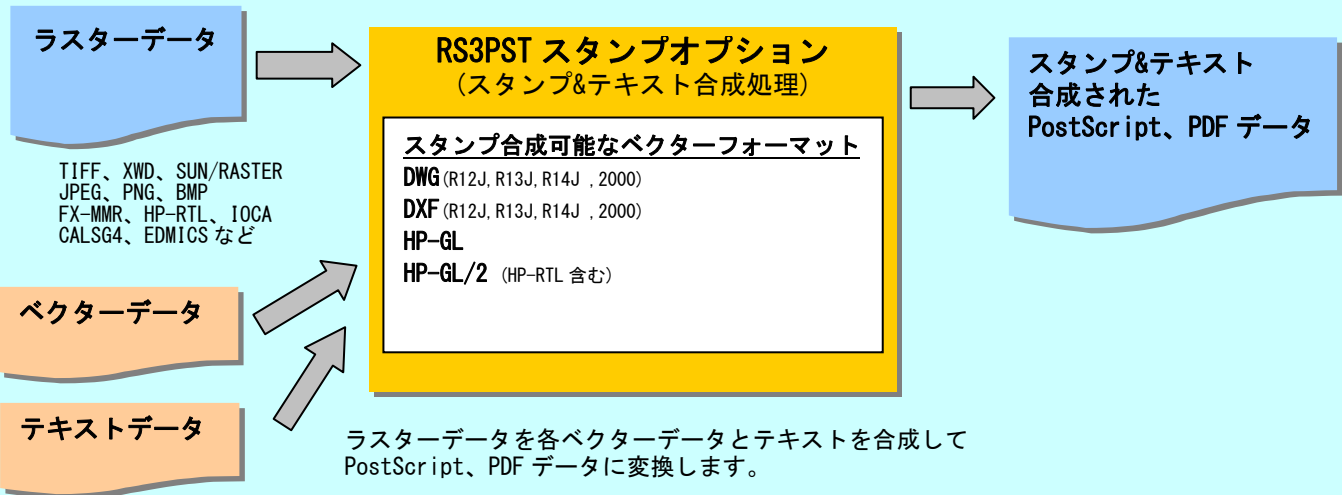
(ラスター/PostScript, PDF変換)



Kernel Computer System  
カーネルコンピュータシステム株式会社

本社：パッケージ販売部  
〒221-0056  
横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル  
TEL：045-442-0500 FAX：045-442-0501  
URL：<http://www.kernelcomputer.co.jp>

## RS3PSTにスタンプとテキストを合成するオプションプログラム



### ◆RS3PST スタンプ合成オプション製品ラインナップ

スタンプ合成するベクターフォーマットに応じて以下の製品からお選びください。

RSDWG3PST	-----	長尺ラスター/ PostScript, PDF 変換、DWG データのスタンプ合成変換、テキスト合成変換
RSDXF3PST	-----	長尺ラスター/ PostScript, PDF 変換、DXF データのスタンプ合成変換、テキスト合成変換
RSHP3PST	-----	長尺ラスター/ PostScript, PDF 変換、HP-GL データのスタンプ合成変換、テキスト合成変換
RSH23PST	-----	長尺ラスター/ PostScript, PDF 変換、HP-GL/2 データのスタンプ合成変換、テキスト合成変換

### 動作環境

UNIX : Solaris9 以降 (SPARC)  
HP-UX11i V2 以降  
AIX6.1 以降

PC : WindowsXP, Windows Server 2003  
WindowsVista, Windows Server 2008, Windows 7  
Windows Server 2008 R2, Windows 8, Windows Server 2012  
Windows 8.1, Windows Server 2012 R2, Windows 10  
LINUX (x86 系)

### 価格

【RS3PST スタンプ合成オプション】 各 40 万円 (税抜き)

RSDWG3PST / RSDXF3PST / RSHP3PST / RSH23PST

# 操 作 説 明

KD ラスターコンバートは、コマンドラインアプリケーションです。通常のコマンドと同じように、コマンドラインから実行したり、バッチファイルやシェルスクリプトに組み込むことができます。  
Windows の場合は、「コマンドプロンプト」で DOS ウィンドウを開いて、その中で実行します。

## 1. 属性ファイル

変換を始める前に、変換に必要な情報を属性ファイル上で設定します。

ras_in. atr	RASTER 入力属性ファイル
ras_out. atr	RASTER 出力属性ファイル
text_in. atr	TEXT 入力属性ファイル
psx_out. atr	PostScript 出力属性ファイル
pdf_out. atr	PDF 出力属性ファイル
XXX_in. atr	ベクター入力属性ファイル

※ ベクター入力属性ファイルは各ベクターフォーマットによって異なります。  
(hpgl\_in. atr/dxf\_in. atr 等)

## 2. スタンプ合成

### ◆スタンプファイル合成の実行例

スタンプ合成処理は以下の手順で行います。

- ① 各入出力属性ファイルを変換したい内容に合わせて設定する。
- ② スタンプデータを作成し、各ベクターフォーマットで保存しておく。
- ③ スタンプデータファイルの情報を記述した「スタンプ記述ファイル」を作成しておく。
- ④ -sm オプションで③のファイルを指定して、変換処理を実行する。

各属性ファイルの設定とスタンプ記述ファイルを作成後、以下のようにコマンドラインに入力します。

実行モジュール名	入力ファイル名	-O出力ファイル名	-SMスタンプ記述ファイル名
----------	---------	-----------	----------------

例：RSHP3PST の場合以下のように入力して実行します。この例ではラスタデータ in\_file に stampdat1.dat と stampdat2.dat を合成し、PostScript データ out\_file を出力します。  
stamp.txt はスタンプ記述ファイルです。

RSHP3PST	in_file	-Oout_file	-SMstamp.txt
----------	---------	------------	--------------

スタンプ記述ファイルの内容 (stamp.txt)

#####stamp data sample#####	
MERGE_LOGIC = 1	スタンプ合成方法
IN_ATR = hpgl_in. atr	スタンプ入力属性ファイルの指定
SCALE = 0.5	スケール
ROTATION = 90	回転角度
COLOR_MODE = 0	カラー/2 値指定
*GROUP	
ORG_X = x1	スタンプデータ表示位置 X
ORG_Y = y1	スタンプデータ表示位置 Y
COLORWIDTH = (C1=0.1, C2=0.2, C3=0.3, C4=0.4, C5=0.4)	色番号を線幅に変換
FILE_NAME=Stampdat1. dat	スタンプファイル名
*END	
*GROUP	
ORG_X = x2	スタンプデータ表示位置 X
ORG_Y = y2	スタンプデータ表示位置 Y
COLORWIDTH = (C1=0.4, C2=0.3, C3=0.2, C4=0.1, C5=0.4)	色番号を線幅に変換
FILE_NAME=stampdat2. dat	スタンプファイル名
*END	

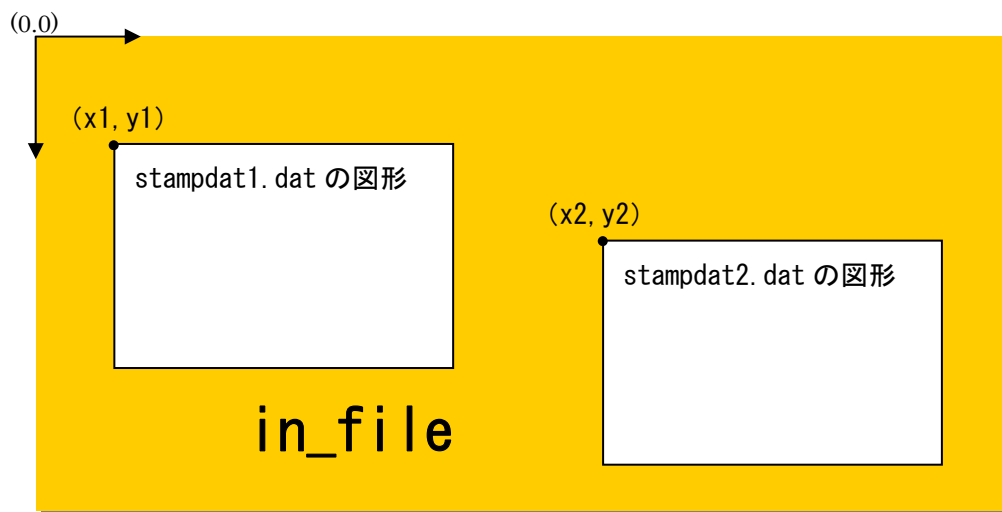
## 実行画面

```
> RSHP3PST in_file - Oout_file -SMstamp.txt  
Copyright(c) 1992-2001 by Kernel Computer System Co.,Ltd. All rights reserved.  
RASTER(in_file) -> PostScript(out_file)ファイル コンバータ
```

ただいま、ファイル変換中です。

RSHP3PST 変換終了

スタンプ合成された出力ファイル(out\_file)



### 3. テキスト合成

テキスト合成処理は以下の手順で行います。

- ① テキスト合成用の各種パラメータを記述した「テキスト入力属性データ変換パラメータファイル」(text\_in. atr)等の各入出力属性ファイルを変換したい内容に合わせて設定する。
- ② 書き込むテキストの情報を記述した「テキストデータファイル」を作成する。
- ③ -TX オプションで②のファイル名を指定して処理を実行する。

#### ◆テキスト合成の実行例

各属性ファイルの設定とテキストデータファイルを作成後、以下のようにコマンドラインに入力します。

**実行モジュール名 入力ファイル名 -O出力ファイル名 -TXテキストデータファイル名**

例：RSHP3PST の場合以下のように入力して実行します。この例ではラスターデータ in\_file にカーネルコンピュータシステム株式会社の文字を合成した PostScript データ out\_file を出力します。sample.txt はテキストデータファイルです。

**RSHP3PST in\_file -Oout\_file -TXsample.txt**

スタンプ記述ファイルの内容 (sample.txt)

```
#####text data sample#####
#-----
#
MOJI_HEIGHT = 6.0
MOJI_WIDTH = 6.0
MOJI_THETA = 0.0
MERGE_LOGIC = 1
#
#-----
*GROUP
KANJI_FONT_NAME=MS ゴシック
ORG_X = x1
ORG_Y = y1
TEXT=カーネルコンピュータシステム株式会社
*END
#-----
*GROUP
DATE_TIME = Y
MOJI_HEIGHT = 3.0
MOJI_WIDTH = 2.0
MOJI_FONT_NAME=Courier
TEXT= DATE=%Y/%M/%D TIME=%h:%m:%s
PAGE_NUMBER = 0
ORG_X = 5.0
ORG_Y = 5.0
*END
#-----
*GROUP
SET_PAGE_NO = Y
MOJI_HEIGHT = 3.0
MOJI_WIDTH = 2.0
POSITION_NO = 5
PAGE_START_NO = 1
POSITION_OFFSET_X = 8.0
POSITION_OFFSET_Y = 8.0
PRINT_MODE = 0
*END
#####
```

<u>共通項目</u>	
文字高さ(単位:mm)	
文字幅(単位:mm)	
文字傾き(単位:度)	
REPLACE モード(後書き優先)	
<u>出力文字</u>	
文字フォントファミリ名称指定(Windows 版のみ)	
表示位置 X	
表示位置 Y	
表示文字列	
<u>日付、時間</u>	
日付、時間を書き込む	
文字高さ(単位:mm)	
文字幅(単位:mm)	
文字フォントファミリ名称指定(Windows 版のみ)	
日付割付書式指定	
マルチページファイル時のページ番号指定	
表示位置 X	
表示位置 Y	
<u>ページ出力</u>	
自動ページ番号割付	
文字高さ(単位:mm)	
文字幅(単位:mm)	
日付等の割付位置指定	
ページ番号の割付開始ページ指定	
ページ番号とファイル名を割り付ける余白指定 X	
ページ番号とファイル名を割り付ける余白指定 Y	
ページ番号の書式指定	

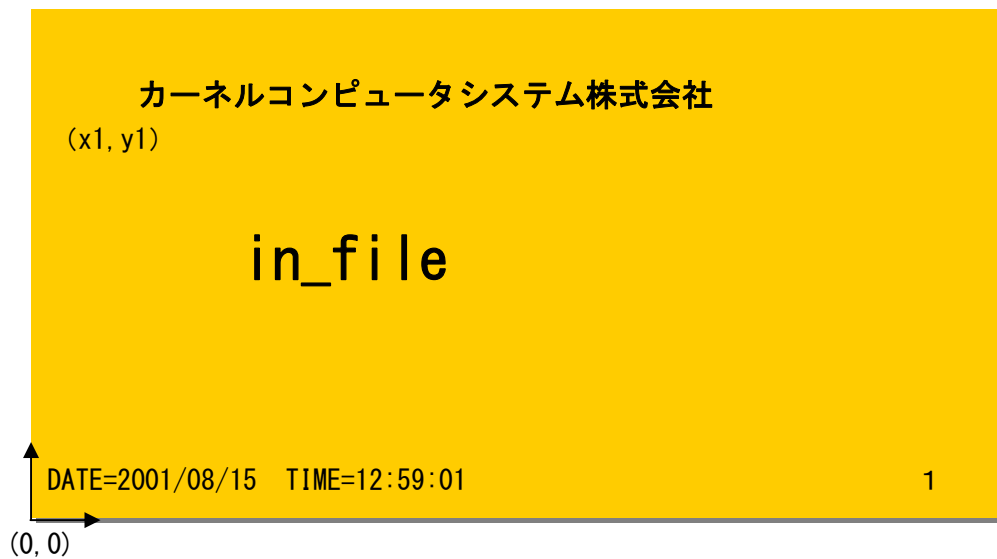
## 実行画面

```
> RSHP3PST in_file - Oout_file - Txsample.txt  
Copyright(c) 1992-2001 by Kernel Computer System Co.,Ltd. All rights reserved.  
RASTER(in_file) -> PostScript(out_file)ファイル コンバータ
```

ただいま、ファイル変換中です。

RSHP3PST 変換終了

テキスト合成された出力ファイル(out\_file)



## 4. 合成情報ファイル

### ◆スタンプ、テキスト合成情報の記述ファイルについて

ラスター上に合成するスタンプ、テキストの情報を記述するテキストファイルです。  
各パラメータを設定し、任意の名前で保存してください。変換時に保存したテキストファイルを  
指定することによりスタンプ、テキスト合成をおこないます。

- グループ定義の開始&終了を設定します。\*GROUP から\*END の範囲で、合成するスタンプ、テキスト情報、  
表示位置などを設定します。(スタンプ、テキスト合成共通)

```
*GROUP ..... グループ定義の開始  
*END ..... グループ定義の終了
```

- スタンプデータの表示位置の設定をします。初期値は0.0で左上を原点(0,0)とします。  
右方向がX値のプラス、下方向がY値のプラスとします。(スタンプ、テキスト合成共通)

```
ORG_X = xxx.xx ..... 表示位置X (単位:mm)  
ORG_Y = xxx.xx ..... 表示位置Y (単位:mm)
```

- 合成するスタンプファイル名称を設定します。(スタンプ合成のみ対応)  
例: FILE\_NAME = testdat.plt スタンプファイルに『testdat.plt』をセット。  
絶対パスで指定してください。

```
FILE_NAME = XXXXXXXXXXXX スタンプファイル名称(パス名称も一緒に指定)
```

- 合成するテキストを設定します。(テキスト合成のみ対応)  
半角 511 文字、全角 225 文字以内で設定。先頭の空白文字、TAB の指定、改行の指定は出来ません。

```
TEXT = XXXXXXXXXXXXXXXX ..... XXXXXXXXXXXX : 表示文字列
```

- スタンプデータの合成方法を設定します。透過モード(0)または上書きモード(1)から選択します。  
(スタンプ、テキスト合成共通)

```
MERGE_LOGIC = X
```

- スタンプデータのフォーマット(DXF, DWG, HP-GL, HP-GL/2 など)に対応した、属性ファイル名称を指定します。  
(スタンプ合成のみ)

```
IN_ATR = XXXXXXXXXXXX スタンプデータ属性ファイル名称
```

- 合成するスタンプ、テキストの線幅を変更する場合に利用します。  
スタンプデータ自身に線幅がある場合はコメントとしてください。(スタンプ、テキスト合成共通)

```
COLORWIDTH = (Ci=w, Cj=w, ...)
```

- 合成するスタンプデータのスケールを設定します。(スタンプ合成のみ対応)

```
SCALE = XXX.XXX ..... スケール値
```

- 合成するスタンプデータの回転角度を設定します。設定値は、0, 90, 180, 270 度となります。  
(スタンプ合成のみ対応)

**ROTATION = XXX**..... 回転角度。(単位：度)

- スタンプデータを貼り付けるときのスタンプデータのカラー/モノクロを選択します。  
(スタンプ合成のみ対応)

**COLOR\_MODE = 0**..... カラーデータを無効(2値)とします。

**COLOR\_MODE = 1**..... カラーデータを有効とします。

- スタンプデータの色番号に対するカラー設定。(スタンプ合成のみ対応)

**COLORRGB = ( C1=r1, g1, b1, C2=r2, g2, b2, C3=r3, g3, b3, . . . Cn=yn, gn, bn )**

Cn : 色番号(0~255)

但し、カラーラスタ出力の場合はインデックスカラー番号の0~254の範囲です。  
(色番号255は白に固定)

rn : 赤値 (0~1000)

gn : 緑値 (0~1000) (注)内部では(0~1000)から(0~255)

bn : 青値 (0~1000) に変換されて処理します。

制限条件：色番号の値は0~255とします。(但し、カラーラスタ出力時は0~254とします)  
RGBの値は0~1000とします。

入力例：例. **COLORRGB = ( C1=1000, 0, 0, C2=0, 0, 0 )**

色番号1を赤1000、緑0、青0(赤色)、色番号2を赤緑青共に0(黒色)に設定します。

- スタンプ、テキストを合成するページを指定です。

初期値：PAGE\_NUMBER = 0ですべてのページに合成します。(スタンプ、テキスト合成共通)

**PAGE\_NUMBER = xxxx**..... ページ番号を指定

- スタンプ、テキストの表示位置の基準となる用紙の原点と、X軸、Y軸の向きを設定します。

**STAMP\_ORG = X**(スタンプ合成)

**MOJI\_ORG = X**(テキスト合成)

X:用紙の原点位置と座標軸の向き(0 ~ 3)

- スタンプ、テキストの基準位置を設定します。

**STAMP\_REF = XX**(スタンプ合成)

**MOJI\_REF = XX**(テキスト合成)

LU、CU、RU、LC、CC、RC、LD、GD、RDから選択します。

# 変換例

例：RSH3PSTを使用してTIFFファイル **kdtest\_2.tif** にHP-GL ファイル **sp1.hp** とカーネルコンピュータシステム株式会社の文字を合成したPostScript ファイル **kdtest\_2.ps** を出力します。  
 テキストデータファイルは **sample.txt**、スタンプ記述ファイルは **stamp.txt** とします。  
 以下のようにコマンドラインに入力します。( -ar : 自動回転、 -ap : 自動用紙コマンド)

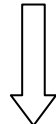
```
RSH3PST kdtest_2.tif -Okdtest_2.ps -TXsample.txt -SMstamp.txt -ar -ap
```

stamp.txt

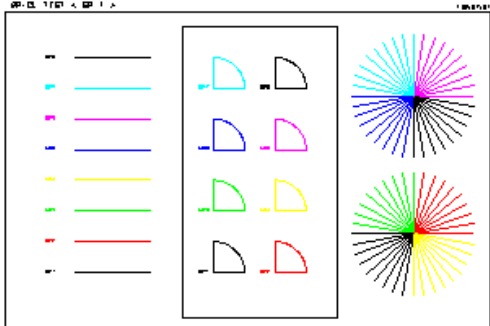
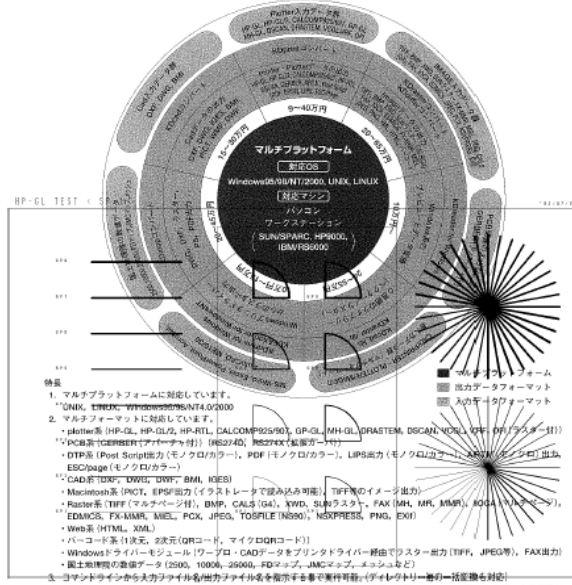
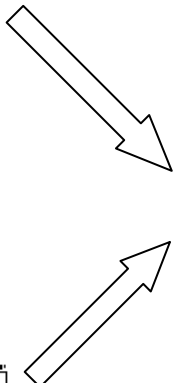
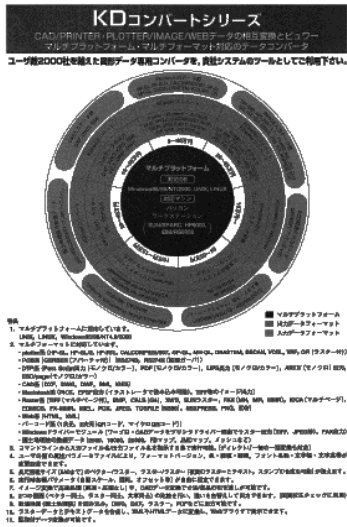
```
##### stamp data sample #####
MERGE_LOGIC=0
SCALE = 0.5
ROTATION = 0
IN_ATR = hpgl.in.atr
MERGE_LOGIC=0
#-----
*GROUP
PAGE_NUMBER = 1
ORG_X = 0.0
ORG_Y = 50.0
FILE_NAME = sp1.hp
*END
#####
```

sample.txt

```
##### text data sample #####
*GROUP
PAGE_NUMBER = 1
MOJI_HEIGHT=8.0
MOJI_WIDTH=8.0
ORG_X = 0.0
ORG_Y = 0.0
TEXT=カーネルコンピュータシステム株式会社
*END
#####
```



入力 TIFF ファイル kdtest\_2.tif



スタンプ用 HP-GL ファイル sp1.hp

カーネルコンピュータシステム株式会社

変換された PostScript データ kdtest\_2.ps